

「スペシャル医療クラーク」 ～ 京都医療センターにおける活用事例 ～

【要約】

最近、「医療クラーク」という職種に注目が集まっている。医療クラークとは、医師の事務作業の負担軽減を目的に、「医師事務作業補助体制加算」に対応した業務を行う者のことである。

医師の日々の診療活動において、診療という本業以外に大きなウェイトを占めている業務が、膨大な書類作成である。医師にとって、これら作業は大きな負担であり、ただでさえ過重な労働状況にある病院医師を疲弊させ、ひいては医師不足といった問題を引き起こしているとも言われている。このような現状の中、2010年度診療報酬改定が行われ、さらなる「医師事務作業補助体制加算」が認められた。

今回のヘルスケアノートでは、様々なバックグラウンドとスキルを持った人材を、医療クラークとして独自のカリキュラムで養成し、高い効果を挙げている独立行政法人国立病院機構京都医療センターの取り組みを、藤井信吾院長との対談を交えて紹介する。

当センターでは、①高度なカリキュラムの専門教育を受けている、②語学等のスキルを有している、③一般的な事務員以上の処遇がある、を理由に医療クラークを「スペシャル医療クラーク」と呼んでおり、医師や看護師が専門分野のパフォーマンスを100%発揮できるよう、専門職のマネジメント業務という高度な役割と期待を課している。

医師・看護師が本業に専念し、専門力を発揮できることは、最終的には、患者満足(待ち時間の短縮、十分な診療時間の確保、医師との綿密なコミュニケーションが可能になる、診断書など各種申請書の迅速な発行などのメリット)につながる。

また、スペシャル医療クラークの導入は、医療現場を離職したマンパワーの発掘や異業種経験者の才能の取り込みなど、新たな雇用機会を創出しているともいえ、低迷する日本経済において、朗報のひとつといえよう。

2010年6月28日

Healthcare note

(No. 10-13)

執筆・監修：
独立行政法人 国立病院機構
京都医療センター
院長 藤井 信吾

編集：
野村ヘルスケア・サポート&
アドバイザーズ株式会社

編集主幹：
市川 剛志

編集担当：
松田 義弘

要約：
河添 麻美